



一般社団法人

日本アカデミック・ディテリング研究会

3

Newsletter 2026

2026
July

第12回日本医薬品安全性学会学術大会で、アカデミック・ディテリングのシンポジウム開催

日時 2026年7月25日（土）
場所 アクロス福岡



オーガナイザー、座長、シンポジストは、すべてアカデミック・ディテリング認定薬剤師



シンポジウム 2

7月25日（土） 10:10～12:10
第2会場

●薬剤レビューに活きるアカデミック・ディテリング～相互作用リスクを予測した処方提案を中心に～

オーガナイザー	杉山 奈津子（国際医療福祉大学薬学部）
座長	出雲 貴文（医療法人徳洲会千歳西総合病院 薬剤部） 頓宮 美樹（株式会社la vita）
演者	薬剤レビューに活きるアカデミック・ディテリングの実践 小茂田 昌代（医療法人徳洲会千歳西総合病院 薬剤部） 帯状疱疹処方方をどのようにレビューするか～ディシジョンツリーの活用～ 森崎 隆博（医療法人徳洲会千歳西総合病院） 相互作用において留意すべき薬物のリスト-第2版を使った処方提案の考え方 杉山 奈津子（国際医療福祉大学薬学部） 相互作用の「程度」と「期間」がわかれば、苦手意識は克服できる！ 宗像 千恵（国際医療福祉大学 福岡薬学部／医療社団法人高邦会 高木病院薬剤部）

シンポジウムの内容

アカデミック・ディテリング(AD)は、米国では薬剤師によるDUR(Drug Use Review: 薬物使用レビュー)を通じた介入の効果を高める戦略的教育と位置づけられた。2008年には、独立した医薬品教育・啓発活動法案、いわゆるAD法案が成立され、AD資材作成の助成が始まり、マサチューセッツ州など複数の州や大学でADプログラムが開始された。そして、薬剤師は現在の医療チームの薬物治療に責任を持つ医療者としての職能拡大へとつながった。日本のADは、2017年にアカデミック・ディテラー養成プログラムが始まり、医薬品の基礎薬学特性の比較にも視点を当てた個別最適化を目指すところに独自性がある。現在までに、200名以上のAD認定薬剤師が輩出され、医師の処方行動を最適化する活動が始まっている医師にADを実践することで、最適処方の方考え方を共有でき、薬剤レビュー後の薬剤師の提案も受け入れやすくなることが想定される。

薬効分類	CYP3A誘導薬	先発名	AMNVのAUC変化
抗腫瘍薬	ミトタン	オパブリム®	8.0%
	アバルタミド	アールダー®	11.6%
	エンザルタミド	イクスタンジ®	15.7%
	エンコラフェニブ	ビラフト®	25.8%
	ダブラフェニブ	タフィノー®	34.6%
	レボトレクチニブ	オータイロ®	40.3%
抗腫瘍治療薬	ロルラチニブ	ロープレナ®	49.1%
	リファンジン	リファジン®	17.6%
	リファブチン	ミコブチン®	40.4%
抗てんかん薬	フェニトイン	アレビアチン®/ヒダントール®	25.9%
	カルバマゼピン	テグレート®	35.3%

シンポジウムを通して（オーガナイザーからの提言）

森崎先生からは、症例を基に処方内容をどのようにレビューするか、そしてAD資材に盛り込まれたディシジョンツリーを使った最適処方の方考え方をご紹介いただいた。また、杉山先生からは、アメナメビルがCYP3Aの基剤であることと、中等度のCYP3A誘導作用があることから、どのような具体的な注意が必要かについて、日本医療薬学会学術第一小委員会でのリストを基にお話いただいた。宗像先生からは酵素誘導の影響の時間経過について、わかりやすく、ご紹介いただいた。バラシクロピルの急性腎障害から中毒性脳症は回避可能な副作用であり、帯状疱疹治療アカデミック・ディテリング資材を活用した医師へのAD実践が普及することを切に願う。

お申込みはこちらから→

第9回 日本アカデミック・ディテラー養成プログラム (web)

テーマ：2型糖尿病

日 時：9月6日（日）処方提案 10月4日（日）コミュニケーション

本年度研修会のお知らせ



<https://jpacademic-detailing.com/>